

熊本の共同経営事業
～共同経営計画第1版の状況について～

令和3年（2021年）7月30日

共同経営推進室長

熊本都市バス株式会社 代表取締役社長

高田 晋

申請者

- (1) 九州産交バス株式会社
- (2) 産交バス株式会社
- (3) 熊本電気鉄道株式会社
- (4) 熊本バス株式会社
- (5) 熊本都市バス株式会社

計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間+効率化で生じた余剰の充当先（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

共同経営の概要

- ①旧3号線方面の最適化（植木・山鹿方面）
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当）
- ②川尻市道方面の最適化（川尻・松橋方面）
重複路線の見直し、待ち時間の平準化
- ③産業道路・国体道路方面の最適化（長嶺方面）
重複路線の見直し、待ち時間の平準化
- ④旧57号線方面の最適化（楠・大津方面）
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当）

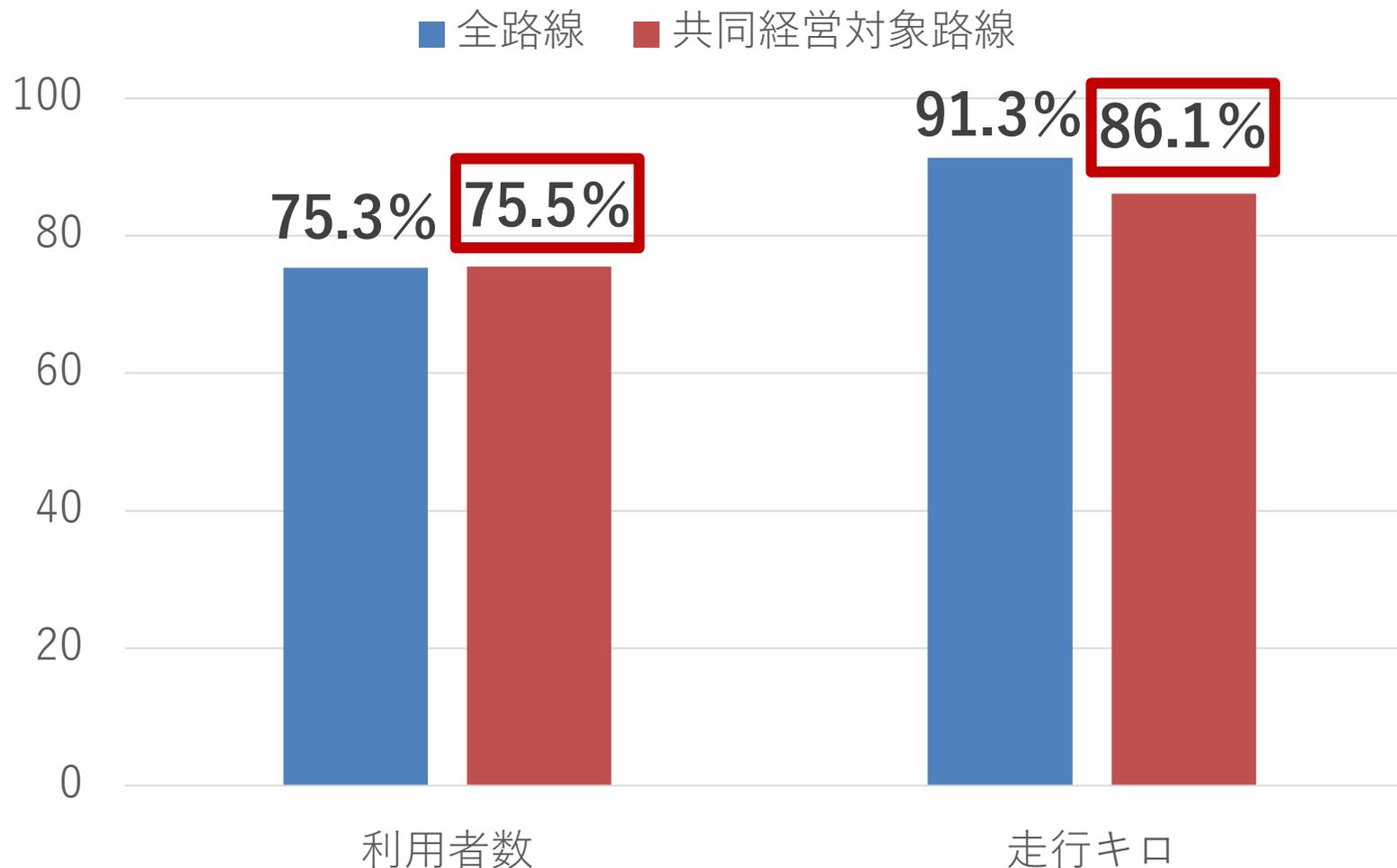
共同経営の目標

- ①収益性・効率性の向上
重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.5人/日・車両4.6台/日の軽減
- ②サービス提供維持の目標
利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

実施期間 令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間



■ 4～6月の前々年比較割合



全路線と比較して、共同経営対象路線の利用者数の減少幅が小さく、走行キロの削減割合が大きいことから、改善効果が出ている

■ 現状

- 本年4月1日より重複区間4方面で共同経営を開始。
- 共同経営対象路線の利用者数は、走行キロの削減率は高いが全路線の利用者数と同水準にある。
(共同経営対象路線▲24.5%、全路線▲24.7% R元年とR3年の4~6月実績値比)
- 共同経営に関する意見は13件寄せられており、対応できる意見には対応済み。

■ 今後の展開

- 引き続き利用者数の推移をひと月ごとに確認する。
- 7月13日から利用者を対象にアンケート調査を実施中。
- 得られた意見を基にサービスの改善等を検討する。